

水質

前号で心配したように、9月に入つて水変りの兆候が現れてい
ます。三又沖では9月2日の観
測で透明度が13mに上昇し、田
伏湖酸素も表面で65%で
27℃と、8月上旬以来今年4
回目の低下を示しました。この
酸素の低下は麻生かう手賀、
水試前までの行方側で著しい
みじです。北浦では9月5日の
調査で、ヤン低く、底層でま
4%の値を示しました。6
月には三和で更に低下し、
高田〜鹿行大橋の間では
間もなく水変りの状態に入る
のでないかと心配されます。

とくに梶山から上流では
タニシ類が水面に浮いて
います。十分注意して下
さい。9月に入ると普通、
秋になると危険しがら
すが、一ミーン甲で、最
悪の条件となることの多
いようです。夕方、おそくな
っても給餌をづづけるこ
とは危険このうちなりのこ
です。3時頃には給餌を
切り上げたものです。

また、早朝、喰いが悪い
漁場では、オウゴン、ヨ
時、ヨリには曝気もおも
れず。
今後、水質がどのようにな
化していくか予想するこ
とは、とてもむづかしいの

ですが、高浜入や北浦では、
透明度が20cmと低く、水変
りが、おこる場合には、か
りひどい酸素欠乏になるもの
と考えられます。しかし、透
明度が低くても、43年のよう
に、夏季に吐物のものが1月
まで余り急激に変化せず
全く被害がなかった例もあ
ります。後者であつて欲しいも
のです。

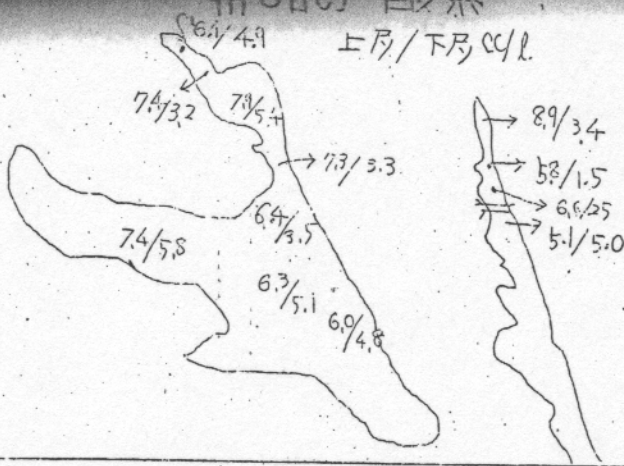


ゴロのはなし(1)

「ゴロ」というのは、ハゼ類の
地方名として、ゴロゴロして
るから、ゴロとこのか、あるには
形が、ゴロゴロとしてゐるから、ゴ
ロとこのか、おとこのところは、
だかではなりのですが、いざれ
にいたしても、東に発ぎます

のある名前ではあります。
これまでに、霞ヶ浦の主役は
ワカサギ・シラウオであるのは、
ウナギ、また最近では、コイに
あつて占められておりました
ゴロは常に勝役を演じてま
じりました。そんなわけで、
これまでは、よほどのものぞ
きの先生が、奇人でもなけ
れば研究の対象とはしな
つて来りなものでした。
ところが、最近漁獲
量の増加もあつて、その霞
ヶ浦における役割が重要
視されるようになって来て
ます。私達もごく最近
になって、この問題に詳しく
なりました。以下、これまで
説明された点を紹介し
たいと思つております。

9月8日の酸蒸
上層/下層cc/L

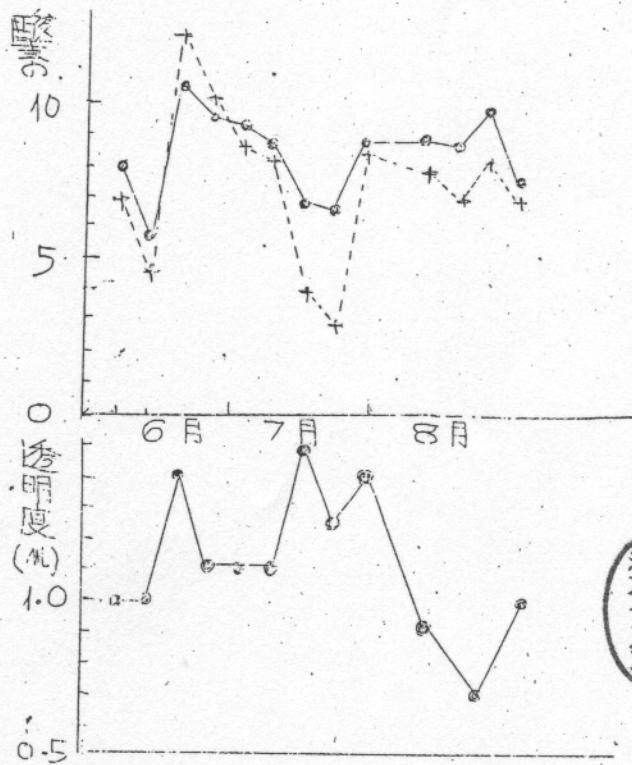
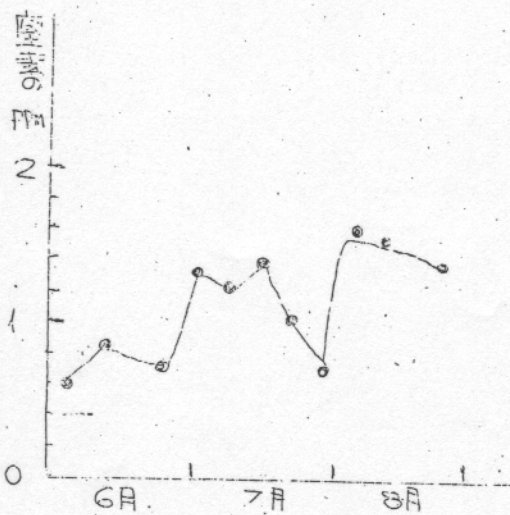


① 44ブ ② アシシロハゼ
③ マハゼ ④ シズカケハゼ
の4種で、マハゼを除いて
他のハゼ類を一般にゴロと総
称してゐます。

8月12日

地点	透明度	酸蒸量	水温	MPN	COD	塩素量	SS	419/L N	700/L	群生数/ml
三叉沖	0.9	8.7 7.5	28.6 27.2	0.11	7.5	168	23	1.50	64	Microcystis 840 Anabaena 400
麻生	1.0	9.6 7.7	29.9 26.9	0.03	5.8	186	13	1.12	91	Microcystis 600 Anabaena 2080
田代	0.8	12.7 5.3	24.8 26.4	0.12	9.0	163	26	1.73	182	Microcystis 2640 Anabaena 720
高崎	0.45	11.9 5.5	28.8 26.8	0.21	13.1	67	60	2.41	140	Microcystis 1580 Anabaena 120
白浜	1.0	9.3 6.6	29.8 27.0	0.11	8.4	189	24	2.48	423	Microcystis 900 Anabaena 720
馬渡	0.9	10.8 5.2	29.6 27.2	0.10	8.9	104	27	2.69	255	Microcystis 960 Anabaena 480
高田	0.5	16.2 5.2	30.2 26.2	0.17	18.0	27	172	3.12	515	Microcystis 2880 Anabaena 120
不登	1.1	8.9 8.2	28.6 27.2	0.15	5.4	164	24	1.09	102	Oscillatoria 360 Anabaena 600

湖心の水質



茨城県内水面水試 行方郡玉造町